

## RR-04 「ICTの導入による保育業務効率化に関する研究」

課題提案者：岩手県保健福祉部、岩手県社会福祉協議会

研究代表者：社会福祉学部 井上孝之

研究チーム員：佐々木 淳（ソフトウェア情報学部）、日向秀樹（岩手県保健福祉部） 星 拓史（岩手県社会福祉協議会）

### <要 旨>

本研究では、保育業務のICT化推進のために、保育者や保護者の保育への意識や有益な通信コミュニケーションのあり方について調査した。その結果、保育者や保護者のICT化への意識が明らかになった。これは今後の保育業務支援システムを構築するうえで貴重な資料であり、ICT化を推進するにあたり、コミュニケーションツールとしての理解推進、利用者の視座に立った保育業務支援システムの開発に有益な示唆を得ることできた。

### 1 研究の概要（背景・目的等）

現在、乳幼児を取り巻く環境は非常に悪化している。特に、今日の保育に関する様々な課題（例えば、待機児童、保育者の処遇、保育者不足）は、子育て世代の労働力を支える上で、緊急に改善すべき問題である。これらの原因の一つとして、保育業務の煩雑さが挙げられる。さらに、平成27年4月にスタートした「子ども・子育て支援新制度」により、保育料の算定方法が大きく変化し、市町村職員も煩雑な算出に負われることとなった。同様に、保育所でも利用時間の計算や自治体への報告などの業務が増加した。

平成28年2月、厚生労働省は事務連絡（保育所等における業務効率化推進事業の実施について）の中で、「ICT化推進のための保育業務支援システムの導入に必要な費用の一部を補助する」ことを示した。保育業務の効率化のために、ICT化推進に対して費用の一部を補助することとなったのである。これにより、一部の保育施設ではICT化が促進され業務改善に繋がっているケースもある。

しかしながら、保育所は他の業種に比べて、日常的な業務の中でPC操作も少なく、保育業界全体でのITリテラシーは、決して高いとは言えない。そのため、PCは保育施設の中にはまだ十分に馴染んでいる状況ではないのである。とはいえ、保育所は、様々な支援を必要とする乳幼児への保育や、保護者への支援の場としても期待され、さらに地域の子育て支援までも担うことが求められてきている。ますます煩雑化する業務に負われ、保育士の仕事を丁寧に全うしようとすれば、保育士自身のワークライフ・バランスも崩れ、ますます保育士不足になるであろう。

そこで本研究では、保育業務の中で効率化を推進できる部分を探り、ICT化推進のために、保育士にも子どもや保護者にも有益な通信コミュニケーションのあり方について調査を通して明らかにする。

### 2 研究の内容（方法・経過等）

#### （1）調査対象と内容

- 1.自治体担当者：新制度の理解を深め、行政の立場からICT化が可能な業務を探る。
- 2.保育者：対話型アプローチを通して「ICTでこれができるれば業務軽減」になることを明確化する。
- 3.保護者：子育てに関心の高い保護者に対して、保育所のICT化についてインタビュー調査を実施する。

#### （2）経過

- 1.自治体担当者
  - ・当年度は、いわて国体・いわて大会の開催年度で、当初予定していた予定がずれ込んだことや、台風10号への対応から、自治体担当者を対象とした新制度にともなうICT化の質問紙調査は実施できなかった。
- 2.保育者（園長、主任保育士）
  - ・調査時期：2016年12月1日
  - ・場所：ふれあいランド（盛岡市）
  - ・内容：岩手県保育協議会主催研修会  
「ICT化でこれができたら業務が楽！  
（ホールシステムアプローチによる対話）」
  - ・講師：岩手県立大学准教授
  - ・保育担当者への周知：共同研究者の岩手県社会福祉協議会が実施。
  - ・調査：ワールドカフェ後の集合知を回収・分析。



図1 保育者向け研修会の様子（写真）

- 3.保護者
  - ・調査時期：9月～10月中旬
  - ・場所、内容、人数
    - 【二戸市】絵本読み聞かせ会（26名）
    - 【盛岡市】書店での絵本読み聞かせ（17名）
    - 【紫波町】オガールでの絵本読み聞かせ（42名）

- ・講師：サトシン氏  
(絵本作家)
- ・保育担当者への周知：岩手県社会福祉協議会、全国認定こども園協会が実施。
- ・調査：絵本読み聞かせライブの開催で保護者を集客し、参加した乳幼児の保護者にインタビュー調査を実施。



図2 保護者向けポスター（写真）

### 3 これまで得られた研究の成果

#### (1) 質問氏調査の結果

- ・回答数は、保育者（N=56）、保護者（N=85）である。
- ・保育者の業務負担感は、図3に示した。保育者、保護者ともに業務負担は大きいと感じていることがわかる。

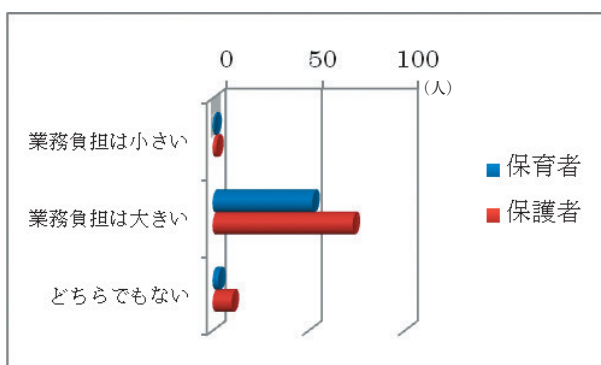


図3 保育者の業務負担

- ・保育者の業務負担の内容を図4に示した。保育者は「連絡帳の記載」や「行政書類の作成」に負担を感じていることがわかる。また、保育者、保護者ともに「保護者とのコミュニケーション」が業務負担の上位に挙げられていることから、双方とも人間関係づくりに負担を感じていることが示された。

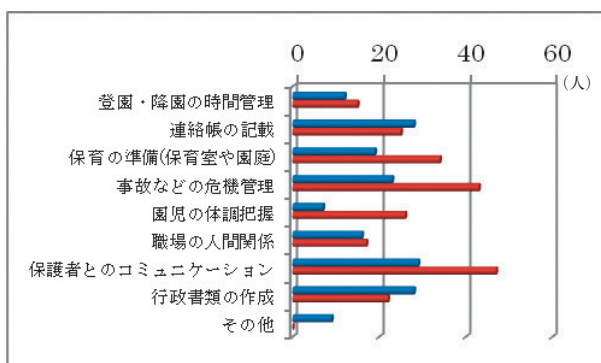


図4 保育者の業務負担の内容

- ・保育施設でのICT化への期待を図5に示した。保育者は「子どもの成長の記録が共有しやすい」ことを

最上位に挙げている。保護者は「園の保育内容がわかる」「園からの連絡の迅速さ」を上位に挙げていることがわかる。

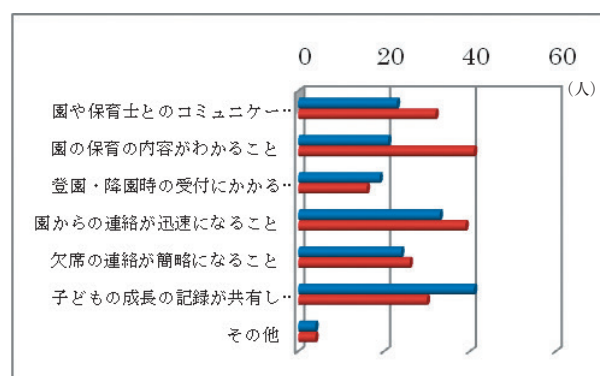


図5 保育施設でのICT化への期待

#### (2) 保育者の対話より

- ・図6には、ワールドカフェによる保育者の対話「ICT化でこれができたら業務が楽！」から創出された内容を示した。

- 【保育記録の簡略化】
  - ・思ったことを話したらパソコンで文章化（音声入力）
  - ・エピソードとして記録の書きとめ
- 【諸表簿等の作成補助】
  - ・日誌、月案、児童票等をシステム化したい
  - ・記入した記録が自動的に各帳簿に振り分けられるといい
  - ・職員の勤務シフト作成
- 【情報共有】
  - ・申し送りで、担任がいなくても伝えられる
  - ・情報の共有として職員が全員で見られるような仕組み
  - ・成長の記録をブログにまとめて本にしてみたい
- 【感染症等の対応】
  - ・出席簿の管理でインフルエンザでの欠席などがすぐ分かる
  - ・感染症が出た時に、玄関に表示されると良い
- 【その他】
  - ・写真購入のシステム
  - ・保護者と直接かかわらない部分をICT化したい
  - ・機械化でも心が入るとうれしい

図6 「ICT化でこれができたら業務が楽！」の内容

### 4 今後の具体的な展開

今後はこれらの結果を踏まえ、保育者には文書作成に係る負担軽減を、保護者には保育内容や園との連携に係る不安の解消に役立つコンテンツを検討したい。さらに、行政のICT化への期待を調査し、3者のコミュニケーションに資するシステム構築の提案を試みる。

### 5 その他（参考文献・謝辞等）

本研究においては、岩手インフォメーション・テクノロジー（株）の阿部氏、幸野氏の協力がなければ実現できなかった。献身的なサポートに心より感謝申し上げる。